「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいる温かさ

俵　万智

意味

自分が「寒いね」と問いかければ、相手が「寒いね」と答えてくれる、そんな人がいる温かさ。

とても寒い季節だ。自分が寒いとき、相手に「寒いね」というと、相手も寒いため、答えてくれる喜びと、答えてくれる温かさが表されている。「あたたかさ」というのは、あったかいという意味ではなく、相手が自分に答えてくれる喜び、心の中が温かいと感じられる。「寒いね」というところで、とても寒い季節だと感じられる。寒いのに、温かいと言っているところが印象的である。昔のような語句が使われていないところがこの短歌に誘われる気がする。

平成二十二年度　2年2組　生徒作品

むらさきに菫の花はひらくなり人を思へば春はあけぼの

宮　柊二

意味

紫色に菫の花が咲く季節の春の夜。人のことを考えていれば夜は明ける。

この歌の作者は、春という季節を伝えるのに、あえてすみれの花を使っている。みなさんなら、「春」といえば桜の花を思い浮かべる人が多いだろう。しかし、作者はすみれの花をつかい、片思いの恋を伝えているのである。素晴らしい歌である。

また、「人を思へば春はあけぼの」。ここは共感できる。「人」……好きな人を想っていれば、春の夜は明けてしまうということである。誰かを思っていれば、時間などは早く過ぎてしまうということであり、私を含めて共感する人は多いだろう。さらに、作者は、「春」、新しい出合いと別れという季節を使って新しい出合いにどきどきすること、また新しい出合いだからこその不安という複雑な気持ちを表している。

平成二十二年度　2年2組　生徒作品